



ウメモト インフォメーション



2020 年 7 月 2 日

担当者: 岩崎

サウジアラビア産の 6月積みD D原油 (14/14、カッコ内は前月) 比上昇率%	
エキストラライト	34.68(40.6)
ライト	35.28(42.4)
ミディアム	35.48(43.8)
ヘビー	35.48(43.8)

日本の石油会社がサウジアラビアから長期契約で輸入する原油価格が2カ月連続で上昇した。代表油種「アラビアンライト」の6月積み価格は1バレル35.28ドルで、5月積みは35.28ドルだった。

サウジ原油4割上昇

6月積みドバイ上昇を反映

日本経済新聞

サウジ原油は長期契約に基づく輸入原油は直接取引(タイレクト・ディールDD)原油と呼び、ドバイ原油とオマーン原油の月間平均値に調整金を加減して価格を毎月改定する。

世界の改善期待が高まり、経済活動再開や産油国の指標となるドバイ原油価格が上向いたのを映した。

大幅減産で需給バランス

2020 年 7 月 2 日

担当者: 岩崎

燃料需要の減少 コロナで加速も

経産省が報告

経済産業省は1日、新型コロナウイルスの感染拡大を契機としたエネルギー需給の変化についての報告を公表した。エネルギー消費に「不可逆的な構造変化」が起きる可能性を指摘。移動の減少やテレワークの定着で燃料需要が下押しされる一方、原油価格の乱高下が安定供給のリスクになる可能性を強調した。今後

も議論を続けて必要な制度改正を検討する。報告ではコロナ禍を受けたエネルギー需給の変化の具体例を示した。通勤や出張の減少、遠方との会議のオンライン化によるガソリンやジェット燃料の使用量の減少が需要側の変化の典型例だ。化石燃料の需要は環境対策が進めれば長期的には減少が進む見通しだが、その流れがより加速する可能性がある。

産業の投資が手控えられ、将来的な安定供給のリスクになる可能性があると指摘。原油価格は新型コロナウイルスの感染拡大を受けた需要急減と産油国の足並みの乱れによって不安定な動きを見せた。日本は今後の対応策としては資源の安定調達に向けた石油・ガス権益の獲得支援の強化を挙げた。

景気刺激と環境対策を両立させる「グリーン・リカバリー」の広がりにも言及した。欧州では企業支援の際に温暖化ガスの排出量削減を条件にする例が出ている。脱炭素化やエネルギー効率の向上が企業の競争力にも直結するとして、供給側では原油価格の急落によってエネルギー



ウメモト インフオメーション



2020年7月2日

担当者 山崎 可

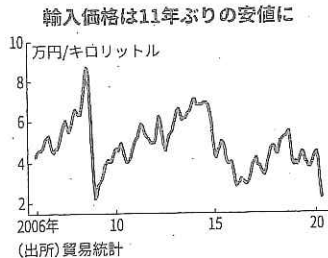
輸入ナフサ11年ぶり安値

欧米の余剰品、アジアに

日本が石化原料向けに輸入するナフサ（粗製ガソリン）の価格が11年ぶりの安値となった。原油安に加え、アジア市場に余剰になった安いナフサの流入が増えたためだ。足元でも域外からの流入は続いているが、ナフサを扱う石化プラントは高稼働率を保っており、ナフサの余剰感は徐々に薄らいでいる。

合成樹脂に下落圧力

国内の石化会社を使うナフサは約6割を輸入している。貿易統計による



調達先のシェアは5月に変動した

	1～4月	5月	
低下	カタール	23.5	21.5
	アラブ首長国連邦	14.2	5.6
	インド	11.4	6.7
上昇	韓国	11.9	14.5
	米国	7.6	8.7
	アルジェリア	1.2	8.8
ギリシャ	0.0	1.9	

(出所) 貿易統計、1～4月は累計、単位は%

と、平均輸入単価は5月が1キロリットル2万9266円と、前月に比べ7265円(約2%)安い。2009年1月以来、11年4カ月ぶりの安値となった。アジアのスポット市場では、1～2カ月前に輸入する分を取引する。3月に原油安などを受け急落し、4月初めに1キロリットル1万7000円前後と約18年ぶり安値を付けた。5月は3～4月に取引されたナフサが日本に入った。

スポット価格が大きく下落したのは、コロナ禍で余剰感が強まったナフサがアジア域外から安値で大量に流入したためだ。5月の輸入を国・地

域別に見ると、日本の主要な調達先である中東が減少。都市封鎖で製油所の稼働率が下がったインドも大幅に減った。一方、米国やアルジェリアなどの比率が高まった。1～4月がゼロだったスペインやギリシャなどからの輸入もみられた。

国内の石化製品取引では、四半期ごとの輸入ナフサ価格を値決めの指標とすることが多い。4～6月は1キロリットル2万5000

の1前後を欧州・アフリカ・米州などから調達する。5月は250万トンを超えたため、6月も200万トンを確保する見通しだ。

輸送燃料の需要の回復が遅れるなか、国内外の製油所は稼働率を引き下げている。原油からガソリンや軽油などと二階に分離されるナフサの供給が割安だった4月に比べ、需要の弱さを背景に安くなるナフサと北海ノレント原油との価格差は6月後半には1.1当たり70～80キロ前後まで拡大。原料の原油よりもナフサが割安だった4月に比べ、需給の緩みは薄れている。

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報



ウメモト インフラオメーション



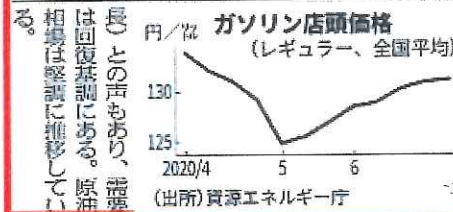
2020年7月2日

担当者: 山崎

ガソリン7週連続上昇

店頭0.2円高、1リットル131.1円

資源エネルギー庁が1日発表した6月29日時点のレギュラーガソリンの店頭価格(全国平均)は前週比0.2円高い1リットル131.1円だった。上昇は7週連続。石油元売り会社が先週、卸値を引き上げた分が小売価格に反映された。沖縄が前週より1.8



長」との声もあり、需要は回復基調にある。原油相場は堅調に推移している。

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報



ウメモト インフラオメーション



2020年 7月 2日

担当者: 岩崎

LPG 3% 上げ 7月積み、サウジアラムコ

サウジアラビアの国営石油会社、サウジアラムコは、液化石油ガス（LPG）の7月積み対日輸出価格を3%と小幅に引き上げると通知した。原

料となる原油の価格が5月と比べ上昇したことと、中東産LPGを多く輸入するインドでの需要が

インドのLPG輸入のうち中東産が約9割を占める。同国では新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向にある。外出を控える人が多く「家庭用

引用記事..

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報